

町田市立図書館の資料購入費の増額を求める請願

<請願要旨>

公立図書館は、市民の知る自由や学習権を保障する社会インフラとして、きわめて重要な施設です。それはまた、地方行政に主体的に参画しようとする市民が、自ら考え、判断する際に必要となるあらゆる資料・情報を提供する機関として、自治体のもっとも基礎的な「社会的共通資本」のひとつです。

図書館が図書館として機能するためには、①施設・設備、②蔵書、③職員の3つの要素が十分に確保されていなければならない、と言われます。特に③の司書職員が果たす役割は大きなものですが、それと同時に②の蔵書、つまり図書館資料が重要であることは言うまでもありません。図書館にはあらゆる分野の資料が豊富に備えられ、それが常に新鮮に維持されてこそ市民は必要な図書館サービスを楽しむことができます。そのためには、一定の資料購入費が毎年継続的に措置されることがどうしても必要です。

ところが、ここ数年の町田市立図書館の資料購入費は、近隣自治体に比べて極端に少ないのが実態です。

「令和4年度東京都公立図書館調査」(東京都立図書館)によれば、今年度の町田市の市民1人当たり資料費総額(図書費+雑誌・新聞費+視聴覚資料費など)と図書費は、ともに東京23区と多摩26市を合わせた全49自治体の中で最低となっています(裏面グラフ参照)。

町田市の市民1人当たりの資料費総額は106円、図書費は80円で、いずれも23区平均(資料費総額310円、図書費226円)、26市平均(同306円、同230円)の三分の一強という惨憺たる有様です。因みに、図書館全体の経費(図書館費)を見ても、町田市は49の区と市の中で、低い方から7番目であり、そもそも他の自治体に比べて、町田市は図書館にあまりお金をかけていないことが明らかです。

これでは市民は十分な図書館サービスを楽しむことができません。2022年度に実施された「図書館利用者アンケート(総合満足度抜粋版)」でも、「不満」「やや不満」の理由として「新刊が少ない」「蔵書数が少ない」「予約待ち時間が長い」という声が各館で挙げられています。

私たちは、町田の図書館が十分にその機能を発揮できるよう、資料購入費が次のように増額されることを強く求めます。

<請願項目>

町田市立図書館の資料購入費、特に図書費を多摩地域の平均金額230円(市民1人当たり)を目標に速やかに増額してください。